

(3面より続き)

続いて、耐震技術の最近の話題と事例、として、増大する予測地震動の話について、お話し頂きました。

南海トラフ大地震を想定した場合、近畿や中部地方では今までの設定よりも、より大きな長周期地震動を考慮して超高層建物の設計を行う必要が出てくること、またこれらの地域の既存超高層建物に対しても同様の検証が望ましい、という今後の方向性について、説明されました。

また、長周期地震はあまり減衰しないで遠方まで伝わり、例として東日本地震の長周期地震では大阪の高層庁舎に被害があったことなど、今後ますます長周期地震を考えた設計が必要となる、ということの説明され、



記念講演会 講師 森高英夫氏

講演が終了しました。質疑応答では、BIMを使った設計ではどの程度の労力がかかるのか、と言う点と、プログラムがますます発達していく中で、若い技術者が今後どのように技術を身につけていけばよいか、という質疑がでました。

森高氏より、BIMを使う場合、ソフトの費用的な問題や実際には専門のオペレーターが必要になってくること、また若い技術者はプログラムより前に、やはり手を使って作業する、ということが基本である、というお話しをして頂きました。

結びに、監事の飯島宏治氏より、講師である森高氏への謝辞が述べられ、終了となりました。

【通常総会後の懇親会は次号にて報告】



記念講演会 会場

ヒロ・コラム No2

YUKORINと「思いづくり」

H大学付属中学校入学式を終えた後、PTA・OB会会長である私と東京六大学で初の女性総長となられた田中優子氏と記念撮影！

関口宏の「サンデーモーニング」にも出演され。テレビでしかお目に掛けなかった人と……

田中氏は、日本の江戸文化研究者であり和服が似合う、とても穏やかでエレガントな女性です。

写真を撮れればと、お願いしたところ、快くお受け頂きました。

ツーショット写真が撮れたらいいなあと考えて居たところ、H大学付属中学・高等学校校長(写真前)と同窓会会長(写真後)が来てしまい、あえなく断念！

ツーショット写真にはなりませんでした。

同窓会会長は自分の小学校(武蔵野第3小学校)、H中学・高校の10年先輩で頭が上がりません！



(ひろふみ)

編集後記

最近全国各地において高齢運転者がコンビニや病院に突っ込むような暴走行為や高速道路を逆走するような交通事故が多くなっている。主に認知症が原因とみられるが、

75歳以上のひとは運転免許証の更新の際には認知症機能検査を受ける義務があり、認知症と診断されれば免許が取り消されるとの事。我々(一部の高齢者)も「明日は我が身」を考え、十分に気を付けなければならない。(明智)



JSCA千葉ニュース(秋)

発行 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報・会員委員会)
〒261-0821 千葉市中央区若草1-2-35 (株)向後構造設計事務所 内 TEL043-225-2181 FAX 043-264-3046

有形文化財保存セミナー

JSCA千葉副代表
(有)市原建築構造設計事務所 市原 嗣久

平成28年7月29日 建築会館8階にて「有形文化財保存セミナー」と題して、講演会が行われました。

1995年の阪神淡路大震災以降、学校建築、公共建築に関しては新耐震設計法以前の旧基準で設計された建物の耐震改修がほぼ終わりに近づいています。しかしながら民間の建物ではまだまだ、東京都や神奈川県等で緊急輸送道路に隣接する建物に関する耐震診断等が進んでいる程度で、他の行政ではなかなか進んでいないのが実情です。



JSCA千葉 市原副代表

耐震補強工事を行ったということでした。

このセミナーをやるという発端は、JIA千葉の会員である麓佳正氏がこの話を聴いて、「このような古い民間の商業施設の耐震改修事例のハード・ソフトの話の話を他の建築技術者の方々にも聴いてもらいたい」と思ったことでスタートし、耐震改修の話という事でJSCA千葉も一緒にということとなり、「確か市原さんが神谷伝兵衛の旧稲毛別荘の診断をやりましたよねー」と飯島さんから話を振られて、最後には千葉県建築設計6団体連絡協議会で開催との話となりました。

当日はJIA千葉の安達文宏氏の司会で始まり、初めに麓佳正氏の挨拶がありました。

神谷バーの設計施工に関しては、設計及び監修が株式会社テクト、補強設計が株式会社東京建築研究所、施工は株式会社丸高工業とのことでした。

(2面に続く)

JSCA千葉役員会組織一覧

代表役員	★担当三役	◎委員長			
代表 向後 勝弘	技術・研修委員会	専門委員会	総務・会計委員会	広報・会員委員会	栗田 毅
副代表 市原 嗣久	★ 市原 嗣久	★ 向後 勝弘	★ 佐藤 暢彦	★ 佐藤 暢彦	秋山 秀之
〃 佐藤 暢彦	◎ 加藤 義道	◎ 飯島 宏治	◎ 笠谷 修作	◎ 西澤 博文	依田 実
(会計)	長内 光雄	木原 碩美	相山 誠治	明智 孝夫	関 和弘
監事 飯島 宏治	竹下 章治	真崎 雄一	榊原 裕繁	高橋 悟	豊岡 重人
園部 隆夫	柴田 孝行	竹下 章治	園部 隆夫	齋藤 利彦	高橋 千絵
顧問 富島 誠司	涌井 栄治	楠川 邦輔	ホーム・ページ委員会	遠竹二三夫	園部 真弓
〃 真崎 雄一	貞弘 清英		★ 佐藤 暢彦	栗田 毅	小川 夏香
〃 木原 碩美	西原 幹夫		◎ 貞弘 清英	若手研修推進WG	阿部裕太郎
			加藤 義道	◎ 西原 幹夫	劔持 晃

(1面より続き)

株式会社丸高工業 代表取締役社長の高木一昌氏の挨拶に始まり、耐震補強工事等の話では、単純にRC増設壁や枠付き鉄骨ブレースの様な耐力要素を配置するのみでは無く、主要なラーメン架構の柱・梁の鉄板巻き補強や木組み床から鉄骨+軽量気泡コンクリート床への改修等を含めた大がかりなもので、営業を行いながらの大変な難工事だったと推測されました。主要な夜の工事では騒音で周囲の方々からのクレームが寄せられ工事をストップしなくてはならなくなった事等の苦労話も聞くことが出来ました。

また、配布された資料には、セミナーにて映写されたDVDも入っていました。

休憩を挟んで、旧神谷伝兵衛稲毛別荘の話です。この建物も、平成9年に国登録有形文化財となった大正7年に建てられた築100年になる壁式鉄筋コンクリート造の建築物で、屋根は木造のトラス小屋組に瓦屋根となっています。用途としては、地下はワイン倉庫、1階は板の間の洋間、2階は壁式鉄筋コンクリート造の建物の中にそっくり畳の和室を作っていて、セミナーに来ていただいた建築の専門家の方でも「2階は木造の建物だと思っていました」との発言もあったくらいのはれた建物です。

初めは一般の建物と同様に、耐震診断業務と耐震補強計画策定業務が発注され、小生の設計事務所受注し業務を行いました。文化庁に耐震改修の補助金の事で千葉県や千葉市の担当職員とうかがったところ、話は単純では無く「保存活用計画を作成し、この建物がどれだけ保存する価値があるものなのか、今後どのように改修し、使い続けて行くのか等をしっかり考えて行かなくては」とのことで、千葉市でも「保存活用計画作成委員会」を立ち上げ「保存活用計画」を作成し、ちょうど現在耐震補強を行うべく設計等の発注を行っているところでした。

このセミナーの話の内容は、千葉市からいただいた「保存活用計画」の資料を基に、構造の話のみでは無く

意匠設計の方々にも興味のあると思われる保存計画の内容も盛り込んで行いました。

最後の質疑応答では、意欲的に新しい耐震補強工事の手法の開発に取り組んでいる株式会社丸高工業の社長である高木氏自らの熱い話が聴けました。

新しい耐震改修のための機械として、神谷パー施工時にはモルタルを剥がす為の消音改修システム(増打ち補強壁等に使用)を開発したとのことで、電動ピックにて100db程度の騒音が発生していたものを55db程度に抑えることが可能となり、養生をすれば隣で仕事をしながらの工事も可能との事でした。

最後のパネルディスカッションは、時間の関係で開けられませんが、飛び入りで参加していただいた元日本工業大学の教授で、神谷パーの審査や千葉市の神谷伝兵衛旧別荘保存計画策定会議の委員の渡辺勝彦先生からも、質疑に対していろいろと専門的な回答を頂き有意義なセミナーとなりました。



セミナー 会場



市原嗣久 講師

JSCA千葉 平成28年 通常総会、記念講演会、懇親会の報告

(有)西原建築設計事務所 西原 幹夫

【平成28年度通常総会】

平成28年6月1日水曜日午後1時30分から三井ガーデンホテルにて、JSCA千葉第19回通常総会が、司会役の加藤義道氏の開会宣言により開催された。

議事進行に先立ち、JSCA千葉代表の向後勝弘氏は、挨拶の中で、歴代代表に敬意とお礼の言葉を述べるとともに、今後も会員皆さんの意見を反映して運営していきたい、と述べた後、規約に従い向後代表を議長として、通常総会が開会された。

議事に入り、総務担当の筈谷修作氏から第1号議案平成27年事業報告、会計担当の佐藤暢彦氏から第2号議案平成27年決算報告が説明された後、園部隆夫氏から監査報告がなされた。

引き続き報告事項として、平成28年事業計画案と予算案の報告が各担当よりなされた。

その後、第3号議案役員改選案について、次期2年も向後代表以下、現在の体制で運営することが了承され、以上により全ての議事が終了し、司会者から閉会宣言がなされた。

【通常総会後の記念講演会】

総会終了後の午後3時から、同ホテル平安東の間にて現JSCA会長であり、株式会社安井建築設計事務所執行役員の森高英夫氏による記念講演「BIMを活用した設計/耐震技術の最近の話題」が140名を超える出席者の中、JSCA千葉副代表の市原嗣久氏の司会によりされた。

講演に先立ち向後勝弘氏は挨拶の中で、熊本地震による被災状況について一日も早い復旧をお祈りするとともに、総会での役員改選を報告し、次期2年も引き続き頑張っていきたい、と述べた。

園部隆夫氏による講師紹介の後、森高氏による講演が行われた。

まず講演テーマに先立ち、JSCA会長としてのお立場から、JSCAの沿革、組織の紹介が行われました。

JSCAは1981年構造家懇談会の発足から現在に至っており、会員数約4500名、構造設計一級建築士の約40%は会員とのことです。

その後、BIMを活用した設計について講演が始まりました。まず、BIMは単なる3次元キャドというのではなく、建物を構成する建築、構造、設備など、全ての情報を集めたデータベースである、と説明されました。

また、BIMの優れている点について、クライアントへのコミュニケーションツールとして利用できることや、設計時に作成したBIMデータを施工会社がデータを引き継ぎ、竣工後はクライアントにデータを引き継ぐことで、後に建物改修を行う際も、建物情報がBIMデータで集約されていることで対応が容易になる、ということなど、非常に興味深い説明をして頂きました。

(4面に続く)



平成28年度 通常総会 会場



向後代表 挨拶